

ボランティアセンター 東日本震災支援ニュース

日本医療福祉生協連 近畿ブロック

2011年8月30日発行担当 兵庫（松浦）京都（田中）

みやぎ県南医療生協 槻木事務所（連絡先 090-6056-8275）

仮設住宅アンケート第一報

この間数回にわたり、仮設住宅の皆さんを対象に、県南医療生協・近畿ブロックの支援の皆さんとで、住宅アンケートを実施しました。

回答頂いた世帯の家族構成は、高齢者夫婦が7割近く。「認知症の夫や妻の介護」「精神科通院」「仙台市内の病院に通院」など、何だかの医療や介護が必要な方が約4割です。また、高齢者が多いことから、仮設住宅の「浴槽の高さ」「砂利道で危険」など生活上での困難さを訴えておられます。同時に、宮城の8月末も朝夕少しは過ごしやすいですが日中は30度近くにもなることもあり、回答の4割近くの方が「熱中症にならないように」と相談をされています。



住宅裏



住宅前は砂利
車道はアスファル

交通アクセスも課題です。国道や幹線道路沿いの仮設では買い物、病院、役場通いなど苦労されながら生活されていますが、山沿いにある仮設は深刻な状況です。「息子夫婦が福島に住んでいるのでなんとか」「車があっても移動が大変」など生活する為の手段に課題があります。また、被災した自宅への不安もあります。「家屋の全壊」「液状化による地盤沈下」「1階部分は無くなった」など将来不安で『夜も眠れない』と訴えておられます。

近畿槻木事務所寝泊りで猛奮闘！

今回で4回目の震災支援活動となる、松浦宜孝さん（写真左端：神戸医療生協の松浦運営委員さん）

初回は4月4日から5月6日、2・3回目も同じ岩手県遠野市で足掛け1か月半支援活動。今回も8月26日から9月11日まで岩手県や宮城県の復興へと大忙し。『16年前の阪神淡路大震災の恩返し。当時、自宅や職場が被災し全国支援で大きく励まされた。その時の思いを今回被災地で』と。

3年前定年し、平和運動とボランティア活動を中心に頑張っておられます。



8月26日作業終了時 この足で事務所へ